

新しい薩摩焼デザインの開発

企画支援部

1 はじめに

薩摩焼は、近年の消費の低迷，生産の減少や後継者不足等，厳しい事業環境におかれています。また，薩摩焼窯元において，美術工芸品的な商品が依然として多く製作され，消費者の購買意欲を刺激しないことも事業環境を悪くする要因の一つとして挙げられます。そこで，消費者ニーズを意識した新しい試みとして，これまで培った伝統工芸技術を生かした新しい上絵の白薩摩焼や，他業種とのコラボレーションによる薩摩焼の提案・試作を行いました。

2 レース柄を配した白薩摩焼の提案

白薩摩焼の上絵技術を生かし，消費者ニーズに合った商品を開発することにしました。ターゲットとしたのは，日本の若者文化に興味を持つ外国人観光客や洋食器に対して根強い憧れを持つ首都圏主婦層です。

様々な嗜好があるなかで，非常に細かく繊細な糸を編み込んだレース柄は，白薩摩の上絵と共通し，その再現も可能であることから，レース柄を既存の丸皿やピアカップの上絵に展開することにしました。検討風景と実際の絵付け風景を図1，2に示します。



図1 レース柄検討風景



図2 手書きの絵付け風景



図3 レース柄皿(中皿・小皿)



図4 フリーカップ・ピアグラス

出来上がった商品(図3，4)は，首都圏で行われたイベントで展示販売，モニタリングを行いました。モニタリングでは，手書きであることの驚きと，買い求めやすい価格であるなど概ね好評で，現在，アイテム数を増やし，定番商品として販売されています。

3 他業種とのコラボレーションによる薩摩焼の提案

急増する外国人観光客や国内高級志向の観光客をもてなす旅館や和風茶房等の施設向けに，国の伝統的工芸品に指定されている川辺仏壇の製造技術を持つグループとコラボレーションし，茶菓子やスイーツを提供するための商品を開発しました。

外装には，岡持ち風の外箱(図5)に，漆仕上げと蒔絵を施し，和を演出することにしました。

外箱の蒔絵(図6)やお重部分の薩摩焼の図柄は，レース柄同様にシール用紙等にプリントアウトし検討しました。出来上がった製品は，「薩摩の味覚箱」と名付け(図7，8)，県内の特産品コンクールや，県内外の展示会等にも出品し，好評を得ています。また，自治体のふるさと納税の返礼品としても取扱いが始まりました。



図5 木地技術による外箱



図6 蒔絵柄案の一部



図7 薩摩の味覚箱・黒



図8 薩摩の味覚箱・赤

4 おわりに

今回の研究では絵柄をプリントしたシール用紙を用いて，効率的な検討が出来ました。試作品は，検討結果以上の商品が出来上がり，薩摩焼や川辺仏壇の職人の技術力の高さがうかがえました。

試作に御協力いただいた溪山窯南州工房，絵付工房秋月窯，川辺伝承七職会に感謝の意を表します。

今後も薩摩焼製造に係る新商品開発や技術的課題に対し，積極的に支援をしていきたいと思いません。